

3-12 職場の競争力に関する上司向け調査自由記述の集計結果

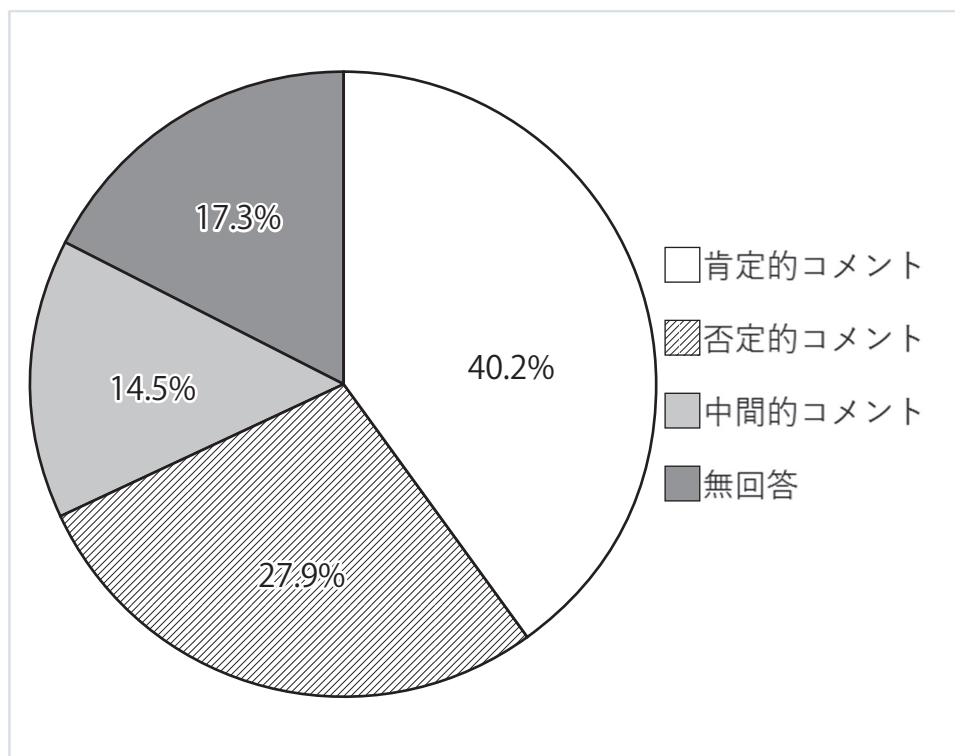
上司向け調査表では、「Q15 いまの職場には、継続的に成果を出し、他社や他の職場に負けない競争力を生み出す力があると思いますか？ あるいはないと思いますか？ その理由や根拠について、自由に書いてください。」という設問が設けられている。本調査のもうひとつの中心課題である職場の競争力にかかわる事柄を、管理監督者層の目から自由に記述してもらうことを意図したものである。

職場の競争力に関する自由記述を集計するにあたって、設問にも示されているように、競争力があると肯定的に書かれたものか、競争力がないと否定的に書かれたものか、それとも、内容からでは肯定的とも否定的ともいえないものなのかを判断し、集計した。

その結果、肯定的コメントが40.2%、否定的コメントが27.9%、中間的コメントが14.5%、無回答が17.3%となった。第一線で職場を統括する管理監督者層としては、日常の経営環境の厳しさから、危機感を高める意識が蔓延している。それにもかかわらず、自職場の競争力については、肯定的な意見が多くなっている。グローバル化が進展した現在、製造業を中心に、わが国の組織の競争力や優位性などに疑問が投げかけられることも少なくないが、実際の現場は自信にあふれており、楽観的見方が広がっていることがうかがわれる。

図3-12-1

職場の競争力に関する自由記述の結果



職場の競争力について肯定的に書かれた回答を具体的に見ていけば、以下のようなコメントが典型的である。

「競争力のある職場であると思う。技術的に困難な業務を、どんなに難しくても必ずやり遂げる団結力と、個々の能力が優れている職場である」

「(競争力が) ある。一定周期毎に仕事の振り返りを実施する事で、少しずつではあるが、生産性が上がっている」

「(競争力が) あると思います。部下各々の能力に応じて、ストレッチした目標の業務付与を実施していること、これを意気を感じている部下も多いことから、職場組織として成長してきていることを実感しています」

同様に、職場の競争力について否定的に書かれた回答を具体的に見ていけば、以下のようなコメントが典型的である。

「日々の仕事に忙殺され、将来に対する弾込めが不十分であり、他者に対する優位性は今後失われていくのではないかと危惧している」

「現状は(競争力が) ないと感じる。会社全体の雰囲気として、まだまだ失敗が許されない感じがあり、1人ひとりの職場がもっともっとチャレンジできる環境が必要」

「他との競争意識は持ち合わせていない。自部署に与えられたミッションの達成のみを目指している」

字面だけを見ると、肯定的コメントを読めば面映く歯が浮くように感じられ、反対に、否定的コメントを読めば深く反省し、その教訓を糧にしなければならぬと感じるかもしれない。しかし、コメント数を集計すれば、否定的意見よりも肯定的意見のほうが数で勝っている。悲観的意見ばかりを読み込むことは、われわれの意識を誤ったほうに導いてしまうことにもなりかねない。褒められる経験が少なく、叱られ慣れをしている職場も多いだろうが、管理監督者層の冷静な目から判断しても、調査された組織の職場における競争力は、けっして見劣りのするものではないのである。